習慣

中村正直

人は幼少より善き習慣に長ぜしむることを要す。蓋し少年の中に習慣となれることは、終身永續して變ぜざればなり。譬へば木の皮に文字を刻むが如し。その木の長ずるに隨ひ文字も大になるなり。兒童の時、その後來行くべき道の中に入れて教育すべし。然らば年長大なるに及び、その道を離れ背かざるべし。起初の中既に結末を包含す。一生の道路は發軔の時に於て方向已に定まり、後來の命運既に決するなり。ロルド、コリンウードはその愛するところの一少年に謂うて曰く「汝未だ二十五歳に至らざる前に、終身の品行を立つべきを要す」といへり。習慣は年の長ずるに隨ひ、勢力を長じ、これより品行を送り出だすことなれば、既に習慣して品行となれるものを、長大の後新たに別路に轉ずるは甚だ難きことな

り。凡そ人既に知れるものを忘れんと欲すること、未だ知らざるものを學ぶより更に難し。希臘に善く笛を吹く人ありき。その弟子の元來拙き師より學びしものには、常に倍する修金を出ださしめしとなり。實に舊習を除き去ることは、齒を扭り拔くよりは痛み甚しく爲しがたきの事なり。試みに懶惰に習へる人・妄りに金錢を費す人・或は酒を嗜み癖を成したる人を教訓して、その行を改めしめんとすとも、能く改め得るもの十に一二もあらざるべし。蓋し是等の習慣・久しく已に深き疵となり、體中の全部

を成したれば、これを除き去ること能はざるなり。されば林智の言に、「善き習慣を形づくらんと、謹んで心を用ふるの習慣こそ、最も明哲なる習慣なるべけれ」といへり。